

1 教科について

国語

昨年度の課題

「聞くこと」の領域では、必要な情報を選択し聞き取ることに課題が見られた。

「言語事項の領域では、文章に応じた的確な漢字を表記することが不十分であった。

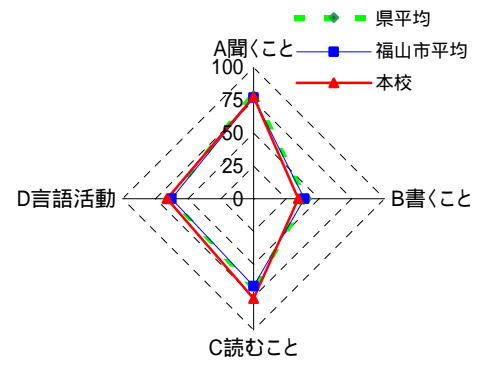
昨年度の課題を受けて具体的に取り組んだ事項

学年別に「話し方」「聞き方」の到達目標と具体例を設定し、全教室に掲示し取り組んだ。また、話を聞き、自分に必要な内容を書き留める活動を多く取り入れた。

語彙力を高めるために、朝タイムの漢字練習で達成率90%未満の補充を徹底して行い、期末の新出漢字では、達成率90%以上にした。

「基礎・基本」定着状況調査通過率

県平均	64.2%
福山市平均	62.7%
学校平均	66.5%



重点課題（ ）：「基礎・基本」定着状況調査

考えを明確にするために構成を工夫して書くこと・・・書くことイ、ウ
1つの理由しか書けていない誤答が多かった。ちがいはきづいているが、表現が明確ではないことや、正しい理由を見つけることができていない。3段落以上で書けていない。

主語と述語の関係をとらえること・・・言語事項(1)オ(ア)

「どこで」「だれが」「だれに」「何を」のうち、「何を」を主語にした誤答がほとんどだった。

・意味を考えて熟語を使うこと・・・言語事項(1)イ(ア)

立 現 見 重 会 表 信 明 言 説 新 芽 進 物 通 紙 熟 達 などさまざまな誤答があった。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

普段から段落を意識させ、構成メモを作成し、文章の組み立てを意識して書く活動をしたり、理由を明確に書かせる活動をする。結論先行で、根拠や理由をはっきりさせて意見を書いたり、述べさせたりする。また、文章を正確に読みとらせる指導や、自分の考えを表現する言語活動を充実させる。1・2学年では、語と語や文と文との続き方、3・4学年では、段落と段落の続き方、5・6学年では、事象と感想、意見などを区別して書く力をつけていく。

主語の役割を理解させ、様々な文の中で意識させる指導をする。～した(述語)のはだれかというように、動作の主体は何かという問いかけで、主語と述語の関係をとらえさせる。作文等で主語がはっきりしていなかったりしていたら、指摘し修正させ主語をとらえる力をつけていく。

新出漢字を学習したら、熟語になるように漢字を書き、意味を考えて熟語を使う力をつけさせていく。

昨年度の課題

「量と測定の領域では、かさの単位による比較が不十分であった。

図形の領域では、コンパスの機能性に着目した操作に課題があった。

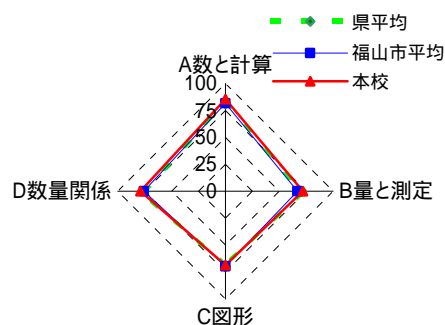
昨年度の課題を受けて具体的に取組んだ事項

任意単位による測定や比較を経験し、量の測定の考え方や普遍単位の有効性に気づくことを大切にしました。

「図形」領域においては、作業的・体験的な算数的活動を多く取り入れ、具体物の操作から自分の考え方をまとめることを大切に指導した。

「基礎・基本」定着状況調査通過率

県平均	75.6	%
福山市平均	74.4	%
学校平均	77.6	%



重点課題（：「基礎・基本」定着状況調査）

ともなって変わる数量の関係を見つけること・・・数量関係4年(1)ア

10回目だから $10 + 4 \times 10 = 50$ と答えている誤答が多かった。また、問題をよく読んでいない誤答や、その他の式をかいている誤答もあった。

辺の数などの直方体の構成要素についての理解・・・図形3年(1)ア

答えが6というように面で考えている誤答があった。しかし、5 7 8 9とさまざまな誤答があった。

四角形の定義を理解すること・・・図形2年(1)イ

四角形の定義が理解できていないと考えられる誤答が多くあった。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

表を書いて、ともなって変わる数量の変化を考えさせるだけでなく、規則性をもとに関係の式に至る指導を徹底させる。1年では、一つの数をほかの数の和や差としてみる。2年では数の大小と順序や乗数が1ずつ増えたときの積の増え方を理解する。3年では、乗数が1ずつ変化したときの積の変化を読みとる。4年では、2つの数量の依存関係とそのグラフを読みとる。5年生では、四則に関して成り立つ性質を理解し簡単な式に表されている2つの数量関係を考察する。6年生では、比や平均の意味を理解し、それをを用いることができるとともに、ともなって変わる2つの数量について、それらの関係を考察することによって数量関係の理解を深めていく。

直方体の具体物を観察させ、具体的操作を取り入れながら直方体の構成要素について理解させる。

紙を折ったり切ったりして、四角形を作ったり、直線を引いて作図するなど具体的操作をとりいれ四角形の定義を理解させていく。

2 意識調査（「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査，児童質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：学校質問紙，児童質問紙）

(1) 生活・学習（「基礎・基本」：学校質問紙 P 1～2，児童質問紙 P 1～3）

（「全国」：学校質問紙 P 10～13，P 18，P 20～21，児童質問紙 P 1～15）

改善したい点（「基礎・基本」，「全国」）	今後の具体的な取組みの内容
<ul style="list-style-type: none"> ・・・家庭での読書時間が少ない。家庭での学習時間が1時間未満の児童が多い。 ・・・早ね早起きができていない児童が多い。 ・・・家庭での学習時間に比べ読書時間が少ない。 （多い子と少ない子の差が大きい） 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの熱中しているものを知り（子どもの読書200選），読書の入り口を柔軟なものにしていく。また、読書がんばりカードや委員会の読書週間で読む本の目標を決めて，読書の興味・関心を高めていく。 ・学習のやり方を示し，自主勉強の課題を与え，家庭と連携をとりながら学習の習慣化を図る。 ・生活のリズムを大切さについて家庭と連携をとりながら改善をはかる。

(2) 教科（「基礎・基本」：学校質問紙 P 3～7，児童質問紙 P 4～6）

（「全国」：学校質問紙 P 14～17，児童質問紙 P 17～29）

教科	児童の回答と学校の指導についての課題（「基礎・基本」，「全国」）	授業改善の方向性や具体的な取組み
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・・・授業中，メモをとりながら聞いたりすることや，話をするとき，一番伝えたい中心をどこで言うかわかりやすいかを考えながら話をする。 ・・・授業中，自分の考えを話したり書いたりすることが他と比べて少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じ，話し方や聞き方の到達目標を設定し，根拠を持って場面に応じた話し方ができるように取組みをしていく。 ・資料を読み自分の考えをまとめる活動に力を入れ，それを交流し合う場面をつくる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・・・理由をあげて自分の考え方やとき方を説明することが苦手である。 ・・・算数の学習と生活の場面をあまり関連づけて考えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考え方をわかりやすく説明できるように，説明の仕方を指導し，根拠を持って説明ができるように継続的に指導する。 ・算数の学習内容が生活場面と関連している問題を取り上げたり，自分の考えを説明する場をできるだけ多く持つ。

指導改善のための実施スケジュール

	～9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
	Plan 結果の分析・H18の改善計画の見直し H19の改善計画の実施		Do	Check		検証	Action	Check 次年度の計画
	改善計画作成 低学年校内研究	保護者説明 HP掲載			学校評価年間報告	学力テスト実施		
【教科】			・新出漢字の熟語集めをする		・漢字国語辞典の活用			
国語	言語技術の指導と評価活動 「書くこと」の到達目標にそった具体的な取り組み 作文指導の充実		・朝のスピーチの原稿を定期的を書いて発表する		短作文で主語述語の関係をとらえる			次年度の計画
言語技術の研修 「書くこと」の到達目標設定	テスト評価		テスト		テスト			
算数	作業的・体験的な算数活動の充実 問題解決の思考過程を大切に授業		ゲストティーチャーやボランティアへ招待状を書く		CDTテスト評価		ゲストティーチャーやボランティアへの感謝状を書く	
算数的活動の研修 問題解決学習の研修	テスト評価		「図形の面積」 具体物を操作する活動を取り入れ面積についての理解を深める。		「円の面積」 具体的操作や具体物を使って円の面積を求める。		テスト	
			ノートのまとめ方の指導・工夫		テスト		次年度の計画	
	テスト評価				CDTテスト評価			
【生活・学習】	読書がんばりカード		読書月間		読書月間		学校評価の生活実態調査	
生活実態調査の考察と取り組みの研修	学習の進め方を示して家庭学習を充実させる。 (学習時間を連絡帳に記入する)		冬季休業中の生活について計画をたてる。		生活のふりかえり		生活のふりかえり	
	生活日記の充実						次年度の計画	